



TITLE:

雜録

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雜録. 日本外科宝函 1929, 6(6): 1583-1598

ISSUE DATE:

1929-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200411>

RIGHT:

## 雜 錄

### 第八回國際外科學會參列記事（第二回報告）

昭和四年七月二十九日——八月八日

於伯林——ベルン 鳥 潟 隆 三

七月二十六日ワルサウヨリ第一回ノ通信ヲ發シソレニハ次回開會地、會長及ビ次回宿題ヲ報告シマシタガ、今日ハ學會ノ大體ノ模様ヲ通信致シマス。

野生ハ七月二十一日朝九時伯林出發午後八時半ワルサウ着、直チニ友人 General Dr. S. Gurlitzki ノ自宅ヘ參リ此處ニ宿泊スルコトニ致シマシタ。七月二十二日（月曜）ハ朝十時カラ開會トノコトデアリマスカラ丁度其時刻ニ G 氏ト同道デ會場ヘ參リマシタ。コレハ「ホテルブルストル」ノ隣デ Palais du Conseil（即チ内閣諸大臣ノ會議館ニテ其ノ一角ハ大統領ノ官舎ナリ）デアリマス。日本デ申セバ學會ノ目的ニ例ヘバ衆議院貴族院等ノ建物ヲ使用シタノト先ヅ同ジコトデアリマス。

立關デ帽子ヲ預ケテ一間半位ノ廣サノ階段ノ敷物ヲ上ツテ行クト二階ハ人デ殆ンド一ツバイデス。學會終了ノ日ノ大宴會ニ出ル切符ヤ、水曜日晚ノ觀劇會ノ入場券ナドヲ手早ク購入シテ會員名簿ニ姓名トワルサウニ於ケル宿所トヲ記入シ委員カラ學會ノ「プログラム」ヤ、注意書キヤ演說内容抄録ノ印刷シタモノヤ、各種ノ招待狀等ノ這入ツタ狀袋様ノモノヲ受取りマシタ。此ノ袋ニハ會員ノ名ヲ青鉛筆デ記入シ A B C 順ニ受附ニ排列シテアリマス。袋ノ中ニハ會員章ガアリマシタカラ其レヲ左ノ襟ニ着ケマシタ。コレハ五分ニ一寸位ノ大サノ金屬製長方形デ人魚ノ様ナモノガ浮彫ニナツテ居リマス。式場タル大廣間ヲ鍵ノ手ニ取り圍ミ四五ノ室ガアリマスガ何レモ會員デ充滿ノ態デアリマス。會員ハ夫人・婦人・令嬢等ヲ同伴デ來ル者モ相當ニ澤山デアリマスカラソレ等ノ人々モ右往左往シテ居リマス。

多クノ人ノ中カラ Frau Prof. Dr. Sawicki ノ顔が目立ツテ分リマシタ、此人ハワルサウ醫大ノ名譽教授デ目下第一外科第二外科ノ教授ハ總テ其ノ門生デアルサヴィツキー教授ノ夫人デス。日本人ノ様ニ漆黒ナ頭髮デ顔ノ色モ日本ノ婦人ヨリハ非常ニ黒ク褐色デス、少シモ粉黛

ヲ施サズニ腰ガ少々曲リカケテ居リナガラモ平氣デ彼方此方ト挨拶ヲシテ歩イテ居リマス（此ノ様ナ事ヲ通信スル譯ハ日本婦人デモ此ノ様な學會ニ主人ト一緒ニ出席シテモ決シテ氣ガヒケル様ノコトハナイト言フコトヲ知ラセタイ爲デス）。

ヤガテサヴィツキー夫人ハ一九一三年以來ノ知己デアル野生ヲ見出シテ傍ヘヤツテ來テ久闊ヲ述ベ『主人ガ是非面會シタイト言ツテ居ツタ』ト申シサヴィツキー教授ヲサガシ一行キマシタ。ソレト行キ違ヒニS教授ガ野生ノ傍ヘ現ハレ水曜（開會第三日目）午後一時午餐ニ是非來テ吳レ、種々ナ人ヲ紹介スルト申シ名刺ヲ出シソレニ同氏ノ宿所 *Hotel 16* ト水曜午後一時トヲ書イテ野生ニ渡シマシタ。

ソレカラ野生ハG氏ト一緒ニ式場ヘ參リ正中線ノ左デ前カラ二列目ノ椅子ヘ着席シマシタ。丁度野生ノ前第一列目ニワルサウ駐在ノ松島公使ガ着席サレ自分ハ公使デアルト告ゲラレタノデ其時始メテ日本人ニ會ヒマシタ。誰カ他ニ來テ居ルカト思ツテ後ノ方ヲ見渡シテ居ル中ニ五六列目ノ右方ニ野口雄三郎・中村兩造・河合直次諸君ノ顔ガ見エタノデ手デ挨拶ヲシマシタ。其ノ中ニ松島公使ガ『伯林カラ軍醫ノ石井四郎氏ガ出席シタイト申シテ來會セル故其旨ヲ幹事ニ一語話シテ置テクレ』ト申サレマシタ。野生ハソレヲ承諾シ待ツテ居ル中ニ石井軍醫ガ來マシタカラ幹事ヲ尋ネテ其旨ヲ述ベマシタ。石井軍醫モ亦『申込ミハ既ニ伯林カラシテアリ入會ノ金モ支拂ツテアル』トツケ加ヘマシタ。コレハ別ニ六ツカシイコトハ無ク石井氏宛ノ大狀袋ハ既ニチャント用意サレテ受附ニ置イテアリマシタ。以上ノ様ナ次第デ從前カラ會員デナイ者デモ開會ノ際ニ一定ノ費用サヘ拂ヘバ飛ビ入りデ會場ヘモ這入り得、一切ノ招待ヲモ受ケテ、全ク普通會員ト同様ノ待遇ヲ受ケルノデアリマス（但シ後デ述ベマスガ總會ノ決議ダケニハ參與セズ）。

十時ヲ過グルコト何分カデイヨイヨ開會ノ式ガ始リマシタ。式場ハ大廣間デスガ平場デス。木ノ椅子ヲ何列カニ揃ベソレニ着席ノ人數約四百、ソレニ對シテ前方ヘ大ナル四角ノ「テーブル」ヲ据エテソレニ會長 *Hartmann*・ボーランド大統領ノ代理內務大臣ニシテ且ツ外科軍醫ナル *Skalkowski*・ワルサウ市長代理副市長 *Belowski*・學會幹事長 *Verhogen* (*Bruxelles*)・常任司書 *Mayer* (*Bruxelles*)・ソレニワルサウ側ノ委員一名程ヨク着席シテ會衆ト相對シテ居リマシタ。大「テーブル」ノ上ニハ二ヶ所ニ小サナ花瓶ガ据エラレ何カ名ハ知りマセヌガ少シモ目ザワリニナラヌ様ノ草花ガ一寸バカリ活ケテアリ、マタ以上ノ人々ノ前ニハ「テーブル」ノ上一人宛ニ用紙ト鉛筆トガ備ヘラレテアリマシタ。

大統領代理・市長代理ガ歡迎及ビ祝福ノ辭ヲ甲ハ佛語、乙ハ英語ニテ述ベ、次デ *Verhogen* ガ會員中ノ死亡者ノ名ヲ舉ゲテ居ル間會衆ハ起立シマシタ。恩師伊藤教授ノ名ヲ舉ゲルカシラト思ツテ耳ヲ澄シテ居リマシタガソレハ述ベマセンデシタ。之ハ多分會ノ幹事ノ方ヘ知

ラセテ無カツタカラデアリマセウ。コノ様ナ事ト知ツタナラバ前以テ自分カラ知ラシテ置クベキデアリマシタ。次デ Mayer 氏モ亦タ何カ謝辭ヤ報告メキタル事ヲ述ベ最後ニ會長ノ Hartmann が起ツテ外科及ビ一般醫學ノ進歩ニ就テ述ベ其中ニハ「ワクチン」ノコトヤ「アナトキシン」ノコトナドニモ言及サレマシタ。此ノハルトマンハ白髮デ鬚髯共ニ雪白、但シ煙草ガ好キト見エテ鼻ノ下ノ「ヒゲ」ダケハ多少狐色ニナツテ居リ、人相ハ如何ニモ意地ノ強サウナ感ヲ與ヘマシタ。丁度濱口首相ノ相貌カラ受ケル感ジト同ジコトデアリマス。開會式ハ十二時前ニ終リマシタ。

ソレカラ暫時ニシテ一同ガ列ヲ作り會場ヲ出テ電車路ヲ横切り靜肅ニ歩ヲ運ビ昔ノ宮殿ノ一ツ、今ハ參謀本部トナツテ居ル所ノ建物ノ前ヘ來マシタ。先頭ニハ柏ノ葉デ作ツタ大キナ花環ヲ捧ゲ行列ノ人々ハ何レモ脱帽シテ行進シマシタ。其處ニハワルサウガ十年ノ昔マダ露西亞ノ支配ヲ受ケテ居ツタ時巨キナ露西亞寺ガアリ波國獨立後ソレヲ砲工兵ニ頼ンデ破壞シテ取り拂ヒ今ハ大キナ廣場ニナツテ居リマス。廣場ト庭園トヲ界スル圓柱作りノ石造ノ廻廊ノ中央ニ「無名兵士ノ墳墓」ガアリ不斷ノ淨火ガ燃エテ居リマス（巴里ノ凱旋門ニ在ルノト同ジ式ノモノ）。國際外科學會ハ今ヤソレニ花環ヲ捧ゲ様トスルノデス。

其處ニハ波國ノ自慢ノ一ツナル Poniowski ノ銅像ガ建ツテ居リマス、コレハ波國出身デ那翁第一世ノ將軍ノ一人トナツタ人デ一八一三年ライプチヒノ郊外デ戰死シタ人トノコトデス。波瀾人ニハ感慨ノ深イ所デアリマセウ。吾々が花環ヲ先頭ニ立テ、無名兵士ノ墓ニ近クヤ兩側ニ堵列シテ居ツタ兵士ハ捧銃デ敬禮シ、吾々が花環ヲ墓ノ上ヘ据エ禮拜シテ居ル間喇叭ノ音樂ガ奏サレマシタ。此時伊太利人ノ會員ハムッソリーニノ意志ニ從ツテ昔ノローマ人ノ行ツタ様ニ右ノ腕ヲ傾ニ高ク上ゲテ墓ノ前ニ禮拜シマシタ。ソレカラ行列ハ解カレテ各人ガ其處ニアル大キナ紙ヘ署名シマシタ。

午後一時ニ「ホテルオイローバ」ニテ中村・石井・河合ノ諸君ト食事ヲ濟シ二時半ニ會場ヘ參リマシタ。今後ハ學術演說デス。手術後「エムボリー」ノ原因及ビ發生機轉ト曰フ問題ニ關スルモノデス。Zürich ノ Riter 氏ガ獨語テ述ベタ以外ハ凡テ多クハ佛語デス。例ヘバ伊太利語デ演說ガ始ルト會衆ノ四分ノ一位ハ遠慮無シニゾロゾロ退場シテ今朝開會式ノアツタ大廣間デ三々伍々散歩ヲシマス。從テ會場内ハ人ノ出入デ靜肅ヲ缺イテ居リマス。

表ヲ掲ゲタリシテモ設備至極幼稚不完全一シテ日本ノ學會ニ於ケルガ如ク理想的ニ揃ツテハ居リマセン。聽衆ノ居ル所ハ平場デス。從テ前方三四列位ハ表モ見エ聲モ聞エル位ノコトデアリマス。學術ノ會場トシテハ日本ノ田舎ノソレヨリモ劣ツテ居リマス。

演説時間ハ十五分位デスガ、非常ニ嚴重デハナク、時間が経過スルコト甚ダシケレバ鉛筆ノ端デ机ヲ叩キ注意ヲ與ヘル位ノコトデス。演説内容ハ前以テ印刷シテアリマスカラ會場デハ單ニ其人ノ顔・態度ヲ見ル位ノコトデス。野生ハ四時半ニ辭シテG氏(前出)ヲ「オメガ」病院ニ尋ネテ行キマシタ、其處デ同氏カラ次ノ様ナ話ヲ聽キマシタ。

國際外科學會ノ用語ハ從來ハ獨・英・佛・伊・西ノ五個國語デアツタガ二年前ニ「スラブ」民族語ノ一ツトシテ波瀾語ヲ加ヘルコトヲ提議シタ。併シ此時ハ英國ハ反對デアツタ。ソレ故ニ此ノ議題ヲ幹事(ベルギーノ)ガ氣ヲ利カシテ最後ニ廻シ議事ガソレ迄進行セズ次回廻シタル様ニシタ。

サテ今度此ノ議題ガ出タ。然ルニ今回ハ英國ハ否トモ可トモ言ハズニ沈默シ、瑞西ト和蘭トダケガ公然不賛成ヲ唱ヘタ。否トスル者唯ダ二名デアルノデ此ノ議題ハ委員會ヲ通過シタ。併シ獨逸側ニ好意ヲ寄セル此ノ二個國ガ本會議ノ時ニ異論ヲ述ベナケレバソレデ此ノ問題ハ確定スル。

波瀾語ヲ解スル人ハ少數デアルカラソレガ國際外科學會ノ用語トシテ公認サレタトシテモソレガ學術上何等實際上ノ意味ヲ爲サヌコトハ波瀾ノ學者ハ百モ承知シテ居ル。併シ波瀾ガ獨立ノ一國ヲ爲シタト言フコトヲ世界ニモ認メサセマタ自國民ニモ其ノ自覺ヲ與ヘル爲ニハ此ノ様ナ承認ヲ得ルコトハ必要デアル云々。

午後五時ニハ大統領(目下留守中)ノ名デ會員及ビ會衆(夫人令嬢一時出席者等)一同ガ『オ茶』一招待サレテ居ルノデ昔ノ王城ヘ參向シタ。コレハダイキセル河ニ沿ヒテ建テラレタ古イモノデ相當ニ有名ナモノトノコトデアル。

此處デ野生ハ先ヅ第一ニ國際外科學會ノ常任幹事マイエル氏ニ始メテ面會シ自分ハ日本ノ代表トシテ差遣サレタ者デアルコトヤ、三宅教授ガ宜シクと言ツタト曰フ様ナコトヲ述ベタ。此男ハ八字ヒゲヲ昔風ニ長ク生ヤシテ居ル血色ノ好イ愛嬌ノアル人デ高等學校時代ニ自分ガ知ツテ居ル當時ノ平山金藏氏ヲ思ヒ出サセル様ノ人デアル。誰ニデモ觸リノヨイ様ナ人デアアル、成ル程コレナラバ永年常任幹事ヲヤツテ居ラレルノモ理由ガアルト思ツタ。G氏ノ後日ノ話ニヨレバ此人ハ名前カラデモ人相カラデモ定型的ノ猶太人デアルトノコトデアアル。サウカモ知レヌ、併シ氣持ノ好イ男デアアル。自分ハ此人ニ次ノ様ナ註文ヲシタ。

獨逸ノ外科醫ガ何故ニ今回ノ學會ニ一人モ出席セヌノデアアルカ其ノ經緯ヲ細カニ日本ノ學界ヘ通信シタキ故、國際外科學會ト獨逸外科學會トノ間ニ往復サレタ文書ノ寫シヲ作ツテハ下サルマイカ。マイエル氏ハスグニ快諾シ早速「タイブライター」一カケ出來次第差上ゲルト

約束シタ。

ソレカラ自分ハ別レテ群衆ノ中ヘ這入ツタ。大廣間ノ外ノ長イ室ニハ食料品ヤ飲料ガアル、其處デバツタリト前ニ述ベタサヴィツキ教授ノ二女ニ遇ツタ。一九一三年ニ始メテ面會シタキリ再會シタノハ今度デアル。双方共最近ノ寫眞デ顔ヲ知ツテ居ル。教授夫人(例ノ髮ノ黒イ)モ傍ニ居ツタガ令嬢ヲ置イテ他方面ヘ往ツタ。令嬢ノ方カラ『アノ當時ハ十四歳デシタネー』ト言フ様ナコトカラ種々ナ話ガ出ル。其内ニ令嬢曰ク、親父ガ貴下ヲ水曜ノ午餐ニ招待シタデシヨウ。ベルンノドゥツケルバンナモ招待シテアルノデス。兩親モ私共モ一生懸命一ナツテ居ルノデス。彼ノ人ガ波瀾語ニ反對セヌ様ニ……併シ親父ハ患者ノコトデ忙シイノデ今日ハ此ノ催ニハ缺席シテ居リマスト述ベル。

野生ハ之ヲ聽イテ感心シマシタ。「日本デハトテモ此様ノコトハ出來ヌ」ト多少考ヘ込ミカ、ツテ居ルト令嬢ハ食卓ノ方ニ行キ菓子ヲ一皿持ツテ來テ吳レマシタ。多少食ベテ机ノ上ヘ置キマシタ。何カ飲ミモノガ欲シイケレドモ大人數ガ重ナリ合ツテ近クコトガ出來マセン。其中ニ令嬢ハ通リガカリノ或人ニ自國語デ何カ頼ンダ様デス。

アレハ誰デスカト聞クト、親父ノ助手デ某學士ダト申シマシタ。五分位モ過ギタト思フ頃ニ其人ガヤツト牛乳入り珈琲ヲ一杯持ツテ來テ吳レマシタ。野生ハソレデヤツト渴ヲ醫シ令嬢ニ別レG氏ヲ見出シテ歸宅シマシタ。ソレハ丁度午後七時頃デシタ。

午後九時カラ會長ハルトマン夫妻ノ名デ會衆全部ガ會場タル *Parais du Conseil* ノ宴ニ招待サレテ居リマス。G氏曰ク、少々横ニナツテ休憩シ様ウジャナイカト。G氏ノ寢室ノ隣ガG氏ノ書齋デコレガ野生ノ寢室兼書齋デス。暫ラク休ンダト思フ頃ニ一天遽カニ掻キ曇リ大雷雨トナリマシタ。野生ハ意ノ中デ『アア之レコソ獨逸外科醫者ノ「ドンネル・ウエツテル」ジャ哩』ト思ヒナガラ窓ヲ透シテ空ヲ眺メテ居ルト、G氏が寢室カラヤツテ來テ、『燈火ヲ消シテ雷電ヲ觀ルト面白イヨ』ト言ヒナガラ室中ノ電燈ヲ凡テ消シテ眞ツ闇一シマシタ。然ル後窓ノ前ニ立ツテ野生ト並ンデ電撃ノ閃光ニ見入ツテ居リマシタ。コレハ學會トハ無關係ナコトデスガ西洋人ニデモ此ノ様ナ型ノ人ガアルコトヲ知ラセタイ爲デス。自分ハG氏トハ日露戰爭當時カラ二十年以上モ交際ヲ續ケテ今ハ兄弟ノ様ニシテ居ルノデス。

「モウ九時ニハ十五分ダヨ、支度ヲシナクテモヨイカ」、「ソンナニ時間通り行カナクテモヨイ」ナド話シ合ヒタル後、G氏ハ再ビ電燈ヲツケ「ソレデハボツボツ用意ニ取カ、ルカナ」ト言ヒナガラ手ヲ洗ヒニカル。野生ハ燕尾服ヲ着ルノハ今夜生レテ始メテアル。「カラ」ハ之デヨイカ。ソレハイカヌ燕尾服ヤ「スモーキング」ニハ前ガ左右ニ開イタノデナケレバナラヌ。一寸「ネックタイ」ヲ結ンデ吳レヌカ。此

様ナ風デ一々G氏ノ指南ト加勢トヲ得テヤット禮服ヲ着ケ終リタリ。工合ノ惡キコト限リ無シ。G氏ハ例ノ軍服ニ身ヲ固メタリ。

『御前勳章ヲ持ツテ居ルカヘ』『何カアツタケレドモソレハ日本ニ置イテ來タ』『コンナ時ニハ燕尾服ニ勳章カ略章カラツケルモノダヨ』

『ウム、マア仕方ガ無イヤ』等ノ話合ガアリタル後、雷雨モ收リタル故、外套ニテ禮服ヲ隠シ、イツモノ黒ノ柔カキ中折帽子ヲカブリ門口ヨリ「タキシード」ヲ招キ宴會場ヘ行キタリ。

階上入口ニハハルトマン氏夫妻ガ待チ居リテ來會者ヘ一々握手ス。ヤガテ大廣間ニテハ音樂ニ連レテ此地ノ役者メキタル男女十名許リガ波瀾ノ昔ノ「ダンス」ヲ跳リタリ。ハルトマンノオヂイサンモオバアサンモ何トナク日本人ニハ同情ノ無イ様ナ顔附デス。多分第七回ノ時ニ日本ガ卒先シテ獨逸外科醫ノ入會ヲ提言シタカラデアリマセウ。當方デモ「コイツ氣ニ入ラヌ奴ダ」ト言フ感ガ起リマシタ。ソレカラ例ノ如ク彼方ノ室デハ立チ食ヒガ始リ、立チ飲ミガ續キ、ヤガテ十二時過ニ辭去シマシタ。獨逸語ヲ聞カセナイデ吳レト主人公ガ註文シタトカ石井軍醫ノ話故仕方ガ無ク佛語デ一寸H氏ニ挨拶シ形式迄ニ握手シテ歸宅セリ。

G氏ハ波瀾ノ一醫學雜誌ヲ示シタリ。此ニハ獨逸外科學會ヲ代表シテ Kuhnert が國際外科學會ニ送リタル手紙ガ載ツテ居ル。即チ一九二九年ノワルサウニ於ケル學會ニ出席スル様ニ申込ミタルニ對スル獨逸側ノ返事ナリ。此ノ全文ハ日本ノ學界ニ於テ最早ヤ知レ渡リ居ルコトカト考フレドモ他日詳細報道致スコトスベシ。要領ハ『一九二〇年巴里ニ於ケル學會デ獨逸ノ學者ヲ侮辱シタル故、ソレヲ無條件デ陳謝セヌ限リハ獨逸外科醫ノ一人タリトモ國際外科學會ニハ出席スルモノニ非ズ』トノ意味ニテ甚ダ鼻息ノ荒キ字句頗ル痛烈ナル手紙ナリ。『コンナ風ニ獨逸ガ出テ來ルト一寸仲直リハ困難ダネ』ト談合ヒタリ。午前一時半頃寢ニ就ク、併シヨク眠レズ、マタ一人起キテ日記ヲ書ク、四時頃再び寢ニ就ク。

七月二十三日(火曜)。朝六時半飛ビ起キル、朝ノ珈琲モソコソコニシテ軍醫學校ヘ獨リ自動車ヲ走ラセル。G氏ハ自分ヲ送り出シテマタ寢タルナラン。此處デハ Dr. M. Iankowski が強直關節(膝)ニ對シ獨特ノ手術ヲ行フト言フ事故ソレヲ見ントテナリ。別ニ變ツタ手術ノ様ニモ見ヘザリキ。コレハ後日詳シク報告スルコト致サン。此ノ手術ノ後ニ三ヶ月間伸展ヲ行フトノコトナリ。治癒シタ患者ヲ三人程見タリ。何レモ運動自由、一人ハ七年前ニ手術ヲ受ケ三年來自動車運轉手ナリト言フ。併シ日本ニテ此種ノ手術ヲ行ヒテモ日本式ニ坐リ得ル様ニナルハ中々面倒ナラン。西洋ニテハ直角位迄屈伸自由ナレバソレデ治療ノ目的ヲ達シタルコトナルノデ右三名ノ治癒例ハ何レモ直角迄位ナリキ。

十時過ぎ會場へ出席ス。本日ハ『胃及び十二指潰瘍ニ對スル胃切除術ノ結果』ト曰フ宿題ニ就テ報告者ノ演説アリタリ。午前八時ヨリ十二時迄、午後ハ二時半ヨリ五時迄アリタリ。演説等ノ内容ハ印刷ニナリ居ル故何レ更メテ其ノ要點ヲ報告スルコトトセン。

十一時過ぎニ松島公使ヲ訪問シタリ、此處デ野口氏以外ノ日本人ハ皆落ち合ヒタリ。午餐ノ時ハ六人ノ日本人來會者偶然「ブリストルホテル」ニ集合シ同一ノ卓ニテ食事ヲ爲シタリ。

五時ニ會員一同市中見物ノ大型自動車三臺ニ分乗シテ *Lazienki* ト言フ處へ遠足ニ出カケタリ。此處ハ市カラ一寸離レタ所ニテ昔ハ國王ノ夏ノ離宮タリシ所、今ハ公園ノ様ニナツテ居リ *Stanislas Augustus* 王榮華ノ夢ヲ語ル所ナリ。自分ハ植村氏ト共ニ第四番目ノ自動車ガ來ルトイフ事故ソレヲ待ツテ居レドモ來ラズ時移ル故別ニ「タキシシー」ヲ呼ビ同乗者三人ニテ此處へ來リタリ。此ノ様ナ場合ニハ何ンデモ厚カシク他ヲ押シノケテ行動スル人ノ方ガ得ヲスル譯ナリ。

會員ガ連レテ來タ夫人・令嬢等ハ無論學術上ノ演説ナドヲ聽聞セズ當地ノ會員ノ夫人令嬢等ノ案内ニテ市内ヤ其他ノ見物ヲシテ歩キ廻リツツ以上ノ様ナ場合ニノミ男ノ會員ト一所ニナルナリ。ツマリ女連ハ學術以外ノ凡テノ催シ事ニ出テ來テ男ノ間ニ交ハルコトナルナリ。此ノ *Lazienki* デモ亦然リ。此様ノ時ハ寫眞屋ガ必ズ撮影シアトデ一葉二圓位ノ値デ會員ニ賣リツツアリ。歸途ニハ自分・植村・河合・中村・石井ノ五人ガ折柄通り掛リノ一臺ノ馬車ニ乘リ市中へ立ち戻リタリ。市ノ中央デ五人連デ珈琲ト菓子ヲ味ヒ各々別レテ歸リタリ。

午後九時ニハ大統領(留守)ノ「レセプション」ガアルノデ例ノ如ク燕尾服ヲ外套ト中折帽トニテ隱シ「タキシシー」ニテ G 氏ト連立チ参リタリ。マタ立チ食ヒ、立チ飲ミヲ行ヒ今夜ハ音樂ニ連レテオ客ガ跳リツツアリ。自分ハアル巨キナ婦人トアル會員ト三人連レニテ庭園ノ方へ出デタリ。庭園ハ廣闊大樹アリ、「リンドン」ノ花盛リニテ香氣高シ。一面ニ電燈飾ヲ加ヘ下ノ一隅ニハ音樂團アリ。昨晚ヨリ少シ後レテ十時頃雷雨來リ一同再ビ屋内へ歸リタリ。此處デモサヴィツキー夫人ノ活動振リガ一番目ニツキタリ。此ノ會デ今夜初メテトルコノ代表者ニ面會セリ、即チ Dr. A. Kemal, Professeur a la faculté de médecine, chirurgien, de l'Hôpital Hasséti ナリ、此人ハコンスタンチノーブルノ政府カラノ派遣ナリ。コレヲ以テ見レバ國際外科學會ニ出席セヌ外科醫ハ戰爭當時ノ所謂 *Zentralmächte* ノ外科醫デハ無クトルコハ既ニ今回参加シテ居ルコトヲ知ルベシ。唯ダ獨・奧・班ノ外科醫ダケガ缺ケテ居ル譯ナリ。午前二時半頃寢ニ就ク、今夜ハヨク眠リタリ。

七月二十四日(水曜)。七時一跳ネ起キル、八時ニ「タキシシー」ヲ走ラセ、市外ブラガニアル市ノ病院へ行ク *L'Hop. de Transfiguration*



ト稱ス。Dr. Pukiewicz ノ蟲様垂切除・腎臟固定・膽囊切除等ノ手術ヲ觀タリ。此處デモ亦タ毎度ノ如ク日本ニテ吾々が手ニ懸ケルガ如キ病變ノ進行セルモノハ多分歐洲ノ外科醫ニハ手術困難ナルベシト思ハレタリ、其處ヲ辭シテ再ビ會場ヘ走ラセタルハ十時過ナリキ。

此ノ朝ハ學會ノ總會ニシテ單ニ會員ノミヲ入場セシム。自分ノ行キタル時モ入口ニテ番人ガ自分ノ名ヲ呼ビテ確カメタリ。會議ノ日程ハ大分進行シテアリタリ。會衆約七八十名 Prof. Verhoogen ガ坐長ニテ其右ニ Lorthioir 左ニ Mayer 及ビボーランド側ノ委員一名、机ノ一方ハ現會長ノ Hartmann ガ全々沈黙シテ控ヘ、ソレト相對スル机ノ一方ニハ伊ノ Giordani 老人ガ控ヘ、凡テ佛語ニテ議事ヲ進メタリ。重要ナルコトノ通譯トシテ英ノ Robert (?) ガ机ノ傍ニ起立シテ居タリ。會衆ノ坐席中デ前列ノ椅子ニハハルトマンニ近イ處ニドッケルバン(ベルン)ガ居タリ。

名譽會員ヲ五名置クトカ、六年間會費未納者ハ除名スルトカ、其他二三ノ決議アリ。會計報告ハ會計幹事長 Lorthioir ノ名デ印刷物ニテ會衆ニ頒タレタリ。從來迄ノ學會ノ規則書モ亦印刷ニテ分タレタリ。是等ハ別ニ報告スルコト一致シマス。

次回會長ハ從來會計幹事長デアリシ Lorthioir (ブラツセル市) トナリ、副會長ハドッケルバントナリ、一九三二年ノ開會地ハスベイン國ト定マリタリ(後ニ至リマトリッドト交渉纏リソレニ決定)。右ハ何レモ投票デナク單ニ會衆ノ呼ビ聲デ決定セリ。

此ノ如ク開會地・會長等ノ選定ニハ普通會員モ代表會員モ之ニ參與セズ特別ノ委員ニテ前以テ定メソレヲ會衆呼聲ノ高サノ結果トシテ報告スルラシク思ハレタリ。

之ニ反シ當日ノ總會ニテ最も會衆ヲ緊張セシメタルモノハ次回宿題ノ選定ナリ。即チ先ヅマイエル氏起立シテ參考トシテ目ボシキ問題ヲ二十五題程讀ミ上ゲ側ノロバーツ氏ガ之ヲ英譯シテ再ビ會衆ニ知ラセタリ。會衆ノ多クハ之ヲ一々紙片ヤ手帖ニ書留メタリ。自分モ二三書留メタレドモロ氏マ氏共ニ發言明白ナラズ、隣ノ人一『今何ント言ツタノカ』ト聞ケバ「自分ニモヨク理解出來ナカツタ」ト言フ様ノ始末ナリ。

其中ニ會衆ノ方カラモ參考トナル宿題ヲ提言スルモノアリ結局二十九題トナリタリ。其中ニ隣ノ室ニテソレガ二十枚位「タイプライター」一テ書カレ會衆ノ前方ニ居ルモノ、間ニ配布サレタリ。後方ニ居ル者ニハテンデ廻ツテ來ズ。此邊甚ダ不統一不整頓ナリ。

『問題ヲ今一度ユツクリ、而シテ明白ニ讀ミ聞カセヨ』トノ會員カラノ註文ニテ、マイエル氏ガ更ニ再ビ讀ミ上ゲロバーツ氏ガ譯シ一番カラ二十九番迄今度ハ多少明白ニ分リタリ、自分モ紙片ニソノ問題ヲ認メタリ。

今度ハ第一番ニ賛成ノ人、第二番ニ賛成ノ人、ト言フ様ニマ氏ガ會衆ニ尋ネルト會衆中賛成ノ人ダケガ右ノ手ヲ舉ゲル、サウスルト前方カラソレヲ數ヘル様ニシテ賛成者何人ト言フ風ニキメル。隨分粗略ナ方法ナリ。中ニハ左右兩方ノ手ヲ舉ゲタ人モアリタリ。此ノ問題ノ中一『外科ニ於ケルワクチン』及ビ『ガングレン』等ガアリ、自分ハ之ニ手ヲ舉ゲ前方ニモ相當多クノ人が手ヲ舉ゲタ様ナリシガ是等ハ何レモ選ニ入ラザリキ。

先づ此ノ様ナル粗雜ナル方法ニテ二十九題中ヨリ選ビ出サレタ五題ヲ掲ゲタリ。ソレガ第八・十三・一六・二七・二九番ニシテ *Numeros suppinas* トシテマイエル氏ガソレヲ右方ノ黑板ノ上ニ書キタリ(後ニ報告スル筈ノ二十九題ノ名稱ヲ參考アレ)。

今度ハ學會ノ捺印ノアル白紙ガ配布サレテソレニ各人が自分ノ欲スル宿題ヲ此ノ五題ノ中カラ三ツダケ記入スルナリ。自分モ亦タ植村氏ト相談シテ三題ダケ記入シ投票用ノ容器ニ入レタリ。此時 *Forbion* 氏ガソレヲ監視シ投票數ヲ數ヘ居タリ。ボーランド側ノ外科醫ハ凡テ一致シテ同ジ番號ヲ記入シタリシ様ナリ。此ノ如クシテ總會ハ十二時頃終了シタリ。終了後自分ハドケルバン一副會長ニナツタオ祝ヲ述べテ握手セリ。「ナーニタダ坐ツテ居ル迄ノコトデス」ト謙遜シテ居タリ。

日本外科學會ニテハ會長ヲ選舉スルノガ如何ニモ物々シキニ反シ此ノ國際外科學會ニテハ會長副會長ナドハ豫メ委員ノ方ニテ定メ置キノレヲ會衆(參衆セル會員)ノ呼ビ聲ノ高サトシテ事モ無ク決定スルナリ。

日本外科學會ニテ宿題ヲ決定スルハ多クハ新舊會長等二、三ノ者ニ一任シ外科學會ノ會員一同ハ其ノ選定ニ全ク參與セズ。然ルニ國際外科學會ニテハ此ノ宿題ノ選定ガ當日總會ノ最大ノ要務ニテ會員全體ハ實ニ厄鬼トナリ緊張甚ダシキモノアリ、其ノ模様ハ前ニ述べタルガ如シ。

之ハ『會長ダノ、副會長ダノ、開會地ナドハドウデモヨロシイガ唯ダ宿題ダケハ慎重ニ定メネバナラヌ、是ダケハ委員ヤ幹部任セデハイカヌ』トノ精神カラ來タモノト考ヘラレマス。而シテ各國ノ會員ハ何レモ其國デ一番深く廣ク研究ガ進ンデ居ル「テーマ」ヲ宿題トシテ選定サセタイト希望シテ居ルカラデアリマス。

以上ノ點ガ日本外科學會ト國際外科學會ト少々違フ點ノ様ニ思ハレマス。會長ガ自分ノ教室出身者ノ「プロバガンダ」ノ爲ニツマリ人ノ爲ニ、或ハ名聞利益ノ爲ニ會員全體ノ意志ニ反シテ宿題ヲ勝手ニ選ブト言フ様ナコトハ此ノ國際外科學會デハ不可能ナコトニ屬シマス。日本ノ外科學者ノ知識ナリ見識ナリガ其處迄進歩シテ居ラヌカラソレ等一同ノ公選ノ下ニ學會ノ宿題ヲ定メルコトハ未ダ時期早シト言フ

人モアルカモ知レヌガ野生ノ意見デハ今後ハ此ノ國際外科學會ノヤリ方ニ倣ヒテ從來會長ヲ選舉スルニ使用シタ用紙ヲバ宿題ヲ公選スルコトニ使用シ外科學會員全體ガ自ラ宿題ヲ選定スル方ガ宜シカラント存ズル次第ナリ。會長ナドハ會員ガ總ガカリニテ物々シク選舉セネバナラヌ程ノ代物デハ無シ。ソレヨリモ宿題ヲ選舉スル方ガ「ヨリ重大」一シテ「ヨリ學術的」ナルベシ。此段日本外科學會員全體ノ顧慮ヲ希望スルモノデアリマス。

午後一時ニハ約束ノ如ク Prof. Sawicki 氏ノ宅ヘ参リタリ。茲ニハ新舊會長・副會長・ソレーブラーグノ Prof. Jirasek 當地ノ外科教授等ガ招待サレタリ。波瀾語ガ次回國際外科學會ノ用語ノ一ツトシテ公認サレドケルバン (瑞西) ガ副會長トナリ萬事都合ヨク行キタルオ祝トシテモヨキ招待ナリ。此ノ模様ハ更ニ詳報致スベシ。

招待ニハ夫人令嬢等モ來リ S 氏ノ三令嬢モ食卓ニ就キタリ。自分ハ G 氏ト並ビ席ヲ占メ、側方ヨリハルトマン夫妻ノ言動ヲ觀察シタリ。何回見テモ意地ノ惡ル相ナ夫婦ナリ。コレデハ獨逸ノ外科醫者ハ参加セヌデアロウト思ハレタリ。

二時半ニナリカケタル故ドケルバンハ自分ノ夫人令嬢ヲ食卓ニ殘シ會場ヘト辭去セリ。ハルトマンモ起チテ戸口迄見送り其處ニテ Q 氏ヲ引寄せテ胸ヘ押シ當テ其ノ頭ヲ叩キタリ。ドケルバンハ自分ヨリモ低キ位ノ小男ニテジャンギリ頭ヲ H 氏ノ丁度頸ノ邊ニ押シアテテ小兒ノ様ニ頭ヲ叩キナデラレテ會場ヘト往キタリ。

本日午後ハ野口氏ノ演說アル豫定ナレドモ「オメガ」病院ニテ午後三時カラ Gammenspalte ノ手術ノ得意ナ Prof. Dr. Meissner 氏ガ手術ヲスルトノ事故ソノ方ヲ觀ル爲ニ G 氏ト共ニ「オメガ」ヘ車ヲ驅リタリ。此ノ手術ノコトハ別ニ報告スル所アルベシ。同氏ハ生後五ヶ月位ノ小兒一手術ヲ行ヒシガ頗ル巧妙ニ行ヒタリ。

午後五時頃會場ヘ行キシガ野口氏ノ演說ハ既ニスミ其他ノ演說モ大方終了シタル後ナリキ。野口氏ニ面會シ模様ヲ聞キタルニ聽衆甚ダ多カリシトノコトナリ。口ガ乾イテ二度モ中途デ水ヲ飲ミタリト言フ。サモアリシナルベシ。併シ内容ハ既ニ印刷シテ渡シテアルコト故會衆ハ十分理解シタルニ相違ナシ。Schmidt ト曰フウ・ホーン 出身ノ介添ヘテ伴ヒ來リソレガ萬事心得テ映寫ナド順々ニヤリシ故甚ダ宜シカリキト石井軍醫ノ話ナリキ。併シ演說ト言フ條ソレハ朗讀ニナリ、ソレハ聽衆ノ顔ヲ見ズ抑揚無シニ流暢ニ讀マレタルコト故、表面ヲスベリ感動ヲ與ヘ難キハ是非モナシト言ヘリ。

此日マイエル氏ヨリ獨逸外科醫ト國際外科學會トノ意見ノ衝突今日迄ノ經緯ヲ明白ニシタ書類ヲ受取リタリ。此ノ文書ニ就テハ別ニ報道

致スベシ。自分ハコレヲ得ル爲ニ昨日モマ氏ニ更ニ依頼シタリシナリ。マ氏ハ感ジノ好イ男ニテ誰ニモ好カレルラシイ様子ナリ。次回ニモ亦幹事ニ推舉セラレタルハ尤ノ次第ナリ。

八時カラ芝居ニ行キタリ。自分トG氏トG氏ノ姉ト其ノ二人ノ姪ト都合五人一ツノ「ロージ」ヲ占メタリ。左隣ノ「ロージ」ハハルトマン夫妻・Verhogen 夫妻・Mayor 等ガ在リ、右方ノ「ロージ」ニハ英國人ラシキ一團ガ頗ル溫柔ナ様子ニテ控ヘタリ。芝居ハ音楽モ處作モ筋モ一向ニ美的ノ所ガ無く、田舎風ノ粗野（ソレニモ粗野ノ美シサヲ認メ得ズ）ナルモノニテ感興ヲ惹起サヌモノナリキ。コレハ波瀾ノ古キ筋ノモノナリトノコトナリ。幕間ニマイエル氏ニ會ヒ文書ヲ入手シタコトノ禮ヲ述ブ。次ノ幕モサツバリ興ヲ惹カズ芝居ハ觀ズニ色々ナコトヲ考ヘタリ。例ヘバ「日本ノ外科醫ノ一部ガ毎年出金シテ餘々讀ミモセヌ國際外科學會ノ記事ヤ別刷ヲ取ツタ所デ何等大シタ意味ヲ爲サズ、ムシロ一同退會シテスキナ時ニ金ヲ拂ツテ開會地ヘ出席シテモソレデ事ガ濟ムデハナイカ」等ノコトナリ。此點ニ就テハ後報更ニ述ブル所アラン。

芝居ハ十時頃スミ、ソレカラワルサウ市ノ招待ガ市廳舎ニアリシガ自分ハソレニハ缺席シテG氏一行ト「カッフェ」ニテ休息シ夕立ヲ避ケヤガテ家ニ歸リタリ。

七月二十五日（木曜）。今朝ハユノクリ起キタリ。會場ニテハ *Chirurgie réparatrice de la hanche* 即チ股關節ノ整形手術ニ就テノ演說アル筈ナレドモ聽キテモ十分ニワカラヌ故（コレハ誰モ同ジコトナリ）軍醫學校ヲ參觀ニ行キタリ。今回參集シタ日本人全體ナリ。先方ニテモ非常ニ歡迎シ詳細ヲ觀セル爲ニ態々軍醫ヲ一人「ブリストルホテル」迄迎ヘニ派遣シタル位ナリ。此人ハ「レントゲン」ノ主任ニテ Dr. B. W. Dugoszowski 氏ナリ。親切ニ案内シ主任ノ Dr. E. Rudzki 氏ガ全部ヲ引連レ病院全體・教室全體・殆ンド隔無ク案内シタリ。

一時頃大急ギニテ市中ヘ歸リ料理屋 Oaza ト言フ所ヘ行ク此處デハ松島公使ガ吾々ヲ午餐ニ招待セラレタルナリ。見ルト傍ノ「テーブル」ニハルトマン氏ガ二三ノ客ト食事ヲシテ居ル。獨逸人ナレバ先方カラ言葉ヲカケオ辭儀ヲスル場合ナレドモハ氏ハ英國流デ當方カラ言葉ヲ懸ケヌ前ニオ辭儀ヲスルノハ日本人ニ對シ禮ヲ失シタモノトデモ考ヘタラシク一度モ言葉ヲ交ハサヌ。ソレデモ歸リガケニ丁度野口氏ノ方ヘ向ツテ其傍ヲ通ラネバナラナカツタノデ野口氏モ起ツテ握手シタ。双方同時ニ手ヲ出シタラシイカラ失敬非禮ハ何方ニモ無イ筈ナリ。コノ様ナコトヲ書ク譯ハコレデ獨逸外科醫ガ日本人ニ對スル態度ガ何レ程親密ナモノデ、佛國ノ外科醫ノ態度トハ大ニ相違アルコトヲ示シタイカラデアル。此前ニ巴里醫大ノアッシエルト言フ教授ガワザワザ日本ノ各大學ヲ訪問シテ日佛間ノ學者ノ交際ヲ求メ一來タガ其時ノ様子

デハ日本ヲ餘程マダ理解シテ居ラヌ様ニ見エタ。之ニ反シ獨逸ノ方ハ佛ヨリモ餘程多ク日本ノ學界ヲ理解シテ居ル。且ツ獨逸人ハ怒ルコトモ怒ルガ底意地ガ惡クハ無イ。

ソレカラ公使館ノ人ニ依頼シ市ノ血清院(ロックフェラー財團ガ一時金何程カタ出シテ増築ノ一部ヲ補助シタ所)ヲ參觀ニ行ク交渉ヲシテ貰ヒ四時ニ一同研究所ヘ往ツタ。此處デハ血清部ノ Dr. Hirschel 氏ガ吾々ヲ待受ケテ説明シテ呉レタ。先方ノ質問デハ『一體何ヲ知リタイノカ、研究所ノ設備カ、業績カ、或ハ事務上ノ事項カ』ト言フ様ナコトデアルノデ自分ハ設備ヨリモ何ヨリモ研究業績ニ就テ何カ新ラシイモノガアルナラソレヲ知ラセテ貰イタイト述べタ。H 氏ハソレナラ丁度茲ニ校正刷ガ來テ居ルカラソレヲ述べ様ト言ツテ癌腫細胞ノ特殊性ヲ血清學的ニ立證シタト言フ研究ノ内容ヲ述べテ呉レタ。『證明方法ハ何カ』『ソレハ補體結合反應デアル』『補體結合反應デハ「アンチゲン」ノ純粹ナモノヲ得難イカラソレデ細胞特殊性ヲ立證スルニハ注意セネバナナルマイ』。『W 氏反應・F 氏抗體抗原反應ソレニ真正ノ抗體抗原ノ補體結合反應此ノ三者ヲ區別スル方法ヲ自分ハ發表シタガソレヲ讀ンダカ』。『ソレハマダ知ラヌ』。『ソレナラ拙著ヲ一部伯林カラ進呈シヨウ』。『血液型ニ關スル拙著ガ茲ニ在ルガ一冊シカナイカラ差上ゲル譯ニ行カヌ』。『併シ「アンチゲン」ヲアマリ純粹ニスルト補體結合反應ガ最早ヤ起ラヌ様ニナル』等ノ話ヲ交換セリ。自分ハ深入リシテ先方ノ弱點ヲ衝クノモ氣ノ毒デアルカラヨイ加減ニシテソレカラ研究室ヲ三四見セテ貰ツテ歸ツタ。ロックフェラーガ建築費ノ一部ヲ出シテ作ツタト言フ建物ハマルデ芝居ノ舞臺ニデモアリサウニ見エタ。無用ノコトデアルト思ツタ。併シ標本陳列場ハナカナカ整頓シテ居ル様ニ見エタ。

此處ヲ參觀シテタ方再ビ會場ヘ往ツタ。演説ハ既ニ終了シテ居ツタ。茲デ次回(一九三二年)ノ宿題ハ左ノ通り決定シタコトヲ知ツタ。

## 第一。脊椎管内腫瘍ノ診斷及ビ治療

## 第二。非結核性肺膿瘍

## 第三。食道ノ外科

自分ハ以上三ツノ宿題ニ對シテ日本ノ外科醫ガ今日既ニ何ノ位迄ニ物ヲ言フコトノ出來ル材料ヲ持ツテ居ルカタ知ラス。併シ平壓開胸術及ビ平壓開胸開腹術ニヨリテ食道下部ヤ胃ノ上部ニ外科的侵襲ヲ加ヘルコトハ幸ニ四五年前カラ京都外科デ始メテ行ヒ出シテ多少ノ治驗ヲ擧ゲテ居ル。此際京都外科モ一層奮發シ、日本ノ醫界モソレヲ直接間接ニ幫助シテ呉レタナラバ或ハ次回ノ國際外科學會ニ於テ多少物ガ言ヘル様ニナルカモ知レヌ。

二十五日ハ學會最終日デ午後八時カラ「ホテルブリストル」デ會員ノ宴會ガアツタ。今夜中ニ出發スル人モアルト言フノデ定刻ニG氏同道出席シタ。今夜ハ「スモーキング」ト言フモノヲ着用シテ出タ。自分ノ「ネックタイ」ヲ着ケルノハ何時デモG氏ノ役デアル。會費ハ一人前日本ノ三圓位デアルガ市カラ一人前十二圓位補助シテ居ルトノコトデアル。ソレデ出席者ハ會員・夫人・婦人・令嬢等デ四五百人モアリシナラン。自分ノ席ハ番號デ定マリアリシモソレヲヤメテG氏ト並ビ坐シタリ。

宴會場ハ手狭マニテ二個所ニ分レタリ。隣ノ室ニテハ會員ノ二三ガ高い聲デ謠ヒ始メ自分等ハ席ヲ離レテソレヲ見物ニ行キタリ。和蘭ノ侍醫ナリト傍ノ人が話シ居タリ。ツマリ隱シ藝ヲ披露シタルモノナリ。

一九二七年ワルサウニ開カレタリシ國際軍陣藥劑醫學會ニテハ各國ノ代表者ガ何カ五分間演說メキタルモノヲ述ベサセラレタリシガ今回ハ左様ノコト無ク至極打チ解ケタル宴會ナリキ。自分ノ前方ニハ佛ノドマルテル夫妻及ビスペインノ某外科醫坐シ、自分ノ左ニハルーマニアノDr. Clidewenト呼ブ人坐リタリ。此人曰ク『野口博士ノ演說ハ獨語デシタカ英語デシタカ』『私ハ丁度不在デシタガソレハ無論獨逸語デス』『私ハ演說ノ内容ヲ前以テ讀ミマシタガソレハ獨逸語デシタカラ演說モソレダト思ヒマシタ。併シ私ノ周圍ノ大抵ノ人ハ英語ダト言ツテ居リマシタ』『學會ノ演說ハ實際ヨクハ理解デキマセン』『全クデス。併シ眼前ニ演說スル本人ヲ見ルト印刷デ讀ンダコトノ内容ガ印象深ク殘リマス、ソレガ先ヅ學會ノ利益デシヨウ』此ノ様ナ談話ガ交換セラレタリ。之ハ決シテ野口博士ノ恥トナル次第ニ非ズ、國際外科學會ニ於ケル演說ト言フモノガドノ位ノ意味アルモノカヲ知ラシムル迄ナリ。多クノ人ハ一々演說ナドヲ聽イテ居ラヌモノナリ。嘗テ老コッヘル教授ガフライブルクノ學會ニテ演說セシ時大多數ノ聽衆ハ『アレハ何國ノ言葉カ』ト尋ネタリトノ語アリ。以テ知ルベキナリ（老コッヘル教授ノ言葉ハベルン訛強ク其ノ文章モ平易ニ非ザルコトハ周知ナリ）。

野口博士ハ自分等ヨリ前方ニ列目ノ「テーブル」ニ其ノ介添人タル Schmidtト着座シ、石井植村ノ諸氏ハ自分等ノ背後ノ二列目ノ「テーブル」ニ在リ丁度サヴィツキ嬢ト向ヒ合ヒタリ。時移ルニ從テ起ツテ盃ヲ舉ゲ萬歲ヲ呼ブ者二、三現ハレタリ。自分モ席ヲ離レサヴィツキ嬢ノ前ヘ近ヅキ「ゼクト」ノ杯ヲ舉ゲテ健康ヲ祝シタリ。此時附近カラ日本萬歲ト呼ブ聲三、四聞エタリ。石井植村ノ諸氏モ亦隣席ノ人々ト乾杯セリ。

ヤガテ「テーブル」ハ片ヅケラレ此室ニ「ダンス」始レリ。大抵ハ土地ノ人ナリ。自分ハ片隅ニ坐ヲ占メ傍觀シナガラ種々ナコトヲ考ヘタリ。G氏モ今夜始メテ踊リタリ。石井軍醫ハナカナカ巧妙ニ踊ルガ如シ。G氏ハ今夜ノ踊ハ全ク自然デ氣ノツマル様ノコト無ク頗ル佳ナ

リト言ヒタリ。自分ノ目ニモ一切ノ光景ガ他人行儀ヲ棄テタル自然ノ交歡ノ如クニ映ジタリ。一時過ギ歸宅セリ。

七月二十六日(金曜)。六時半ニ跳ネ起キル。顔ヲ洗フ時兩脚多少フラツク感アリ。學會出席者ノ爲ニ種々ナル「プラン」ニテボーランド主要都市ノ見物旅行ガ催サレテアリシモ自分ハ一切ソレヲ思ヒ止リ、朝八時ニ大學病院第一外科ニ教授 A. Leshniewski 氏ヲ訪問シ病舎ノ廻診ニ隨伴シタル後チ臨床講義室等ヲ一見シ更ニ同氏ノ手術甲狀腺腫ノ切除ヲ觀タル後十時半「タキシ」ヲ飛バセテ歸宅シ G 氏同道停車場ヘ走り十一時二十分ノ特急ニテ伯林ヘ出發セリ。此時サヴィツキー教授夫人ガ態々「ブラットホーム」ヘ見送り吳レ大阪赤十字病院ノ井岡博士令嬢ト余トニ小サナ贈リ物ヲ吳レタリ。植村河合ノ兩氏モ同車ニテ午後九時伯林ヘ着キタリ。

以上ニテ學會參列ノ模様ヲ大體悉シタリト考フ。自分ガ學會參列ノコトニヨリヨ確定セルハ昭和四年五月( )頃ニシテ演說申込ミ等ノ期限ニ後ルルコト甚ダシク從テ學術上ニハ何物ヲモ持チ出シ得ザリシハ甚ダ遺憾ナリキ。併シ國際外科學會トハ一體ドノ様ナモノ一テソレガドノ位ノ意味ヲ有スルモノナルカニ就テ多少得ル所アリシガ如ク考フルヲ以テ更ニソレ等ノ點ニ就テ報告ヲ致スベシ。

第一報ニテ取敢ヘズ通信セルガ如クニ國際外科學會ヘノ參列者ヲ確定スルハハナル可ク早キガ可ナルベシ。然ラザレバ折角參列シテモ日本ノ學界カラ何物ヲモ持チ出スコトヲ得ズニ終ル可シ。參列ノ意義ハ大部分ハ喪ハルベシ。次回ノ宿題ト何等ノ緣故ナキ人ヲ國家ノ費用ニテ參列セシメテモ意味渺ナカル可ク考ヘラル。サリトテ西洋ノ様子ヲ少シモ知ラヌ人ヲ代表者トスルモ多少細キ感アルベシ。故ニ此邊ヲ考ヘテ學術的參列者(若手)ト實際的參列者(年寄り)ト一名宛都合ニ名程參列セシムルコトトナレバ理想的ナランカ。一人ニテ此ノ二者ヲ兼ヌル者アラバ更ニ結構ナリ。何レトモ考慮セラレタシ(第二報完)。

# 鳥瀉教授御通信

(昭和四年八月十六日附ベルンより  
教室由茅講師宛ての私信の一部)

七月廿五日既ニワルシヨウヨリ日本へ通信セル通り一九三二年第九回國際外科學會ノ宿題中ニハ「食道ノ外科」トイフガアリ京都外科ノ產物ヲ紹介スルニハ好個ノ機會ガ與ヘラレタル譯ニテ先般大澤助教ノ手術シタル開胸開腹術ニヨル食道胃吻合ノ臨床例ノ經過ハ如何ニ相成候也此際教室諸子ノ努力一番ヲ希望致候。ザウエルブルツフハ胸腔ヲ開キ次デ横隔膜ヲ截リテ腹腔中へ進入スル事ヲ「Transhiaphragmale Laparotomie」ト稱シ最近ノ獨逸外科雜誌ニモソレヲ引合ヒニ出シテ縦隔竇ノ深部ヘ到達スル方法ノ記載中ニ舉ゲ居リ候ガソシナ事ハ京都外科デハ敢テ珍トスルニ足ラズ此ノ開胸開腹術(Thorako-Laparotomie bzw. Laparo-Thorakotomie)ノ方ガ餘程有用ニ可有之候。今後ハ機會アル毎ニドシ、此ノ開胸開腹術ヲ行フ様ニナサレ度候。コレデ始メテ肝ノ凸面深部ヘモ到達可能ナルベク候。

## 第二十九回近畿外科集談會演題

- 一、日時 昭和四年十一月十日(日)午前八時  
一、場所 京都府立醫科大學新館第一講堂
- |                         |    |   |   |   |     |
|-------------------------|----|---|---|---|-----|
| 一、創傷治癒ト抗張力ニ就テ           | 京都 | 岩 | 島 | 武 | 次   |
| 二、皮膚消毒法ノ實驗的批判           | 京都 | 町 | 田 | 昌 | 直   |
| 三、腋臭ノ注射療法               | 京都 | 今 | 津 | 九 | 右衛門 |
| 四、横紋筋ニ分布スル神經終末ニ就テ       | 京都 | 濱 | 田 | 稻 | 積   |
| 五、各種神經痛療法ガ末梢神經ニ及ボス組織學的變 | 京都 | 藤 | 田 | 登 |     |
- 化ニ就テ(第二報)

- |                                        |    |   |   |   |    |
|----------------------------------------|----|---|---|---|----|
| 六、脊柱撮影ノ要點                              | 京都 | 齋 | 藤 | 大 | 雅  |
| 七、腱縫合並ニ移植ノ手術成績ガ該腱附屬筋ニ及ボス影響ニ就テ          | 京都 | 中 | 野 | 岩 | 吉  |
| 八、一種ノ肋軟骨疾患ニ就テ                          | 大阪 | 宮 | 崎 | 松 | 記  |
| 九、肋骨小頭脊推體ノ側面ニ關節スルノ「カリエス」ニ就テ            | 大垣 | 吉 | 益 | 雄 | 太郎 |
| 一〇、一二強直關節手術後患者ノ供覽                      | 大阪 | 住 | 田 | 正 | 雄  |
| 一一、先天性前膊骨癒着症                           | 大阪 | 北 | 島 | 好 | 次  |
| 一二、幼年性畸形性股關節骨軟骨炎                       | 大阪 | 後 | 藤 | 俊 | 一  |
| 一三、管狀骨ニ移植セル軟骨ノ運命ニ就テ                    | 大阪 | 加 | 藤 | 喜 | 久男 |
| 一四、腦震盪症ノ療法                             | 大阪 | 上 | 田 | 寛 | 一  |
| 一五、「ブロン」ネオサルバルサンヲ以テスル腦及腦脊髄洗滌ニ就テ        | 大阪 | 有 | 馬 | 正 | 保  |
| 一六、人體ニ於ケル腦脊髄洗滌ニ就テ                      | 大阪 | 大 | 橋 | 兵 | 次郎 |
| 一七、平壓開胸術ニヨル氣管枝内異物及ビ心臟壁ニ刺入セラレタル異物ノ剔出ニ就テ | 京都 | 大 | 澤 | 木 | 隆三 |
| 一八、氣管枝食道瘻ノ一例(X線寫眞供覽)                   | 京都 | 山 | 根 | 齊 |    |
| 一九、肺結核ニ對メル外科的療法ノ撰擇ニ就テ                  | 京都 | 大 | 澤 | 木 | 隆三 |
| 二〇、平壓開胸術ノ許ニ行ハレタル肺結核ノ手術的療法ニ就テ           | 京都 | 矢 | 田 | 浩 | 吉  |
| 二一、空氣嚥下症ノ一例ニ就テ                         | 大阪 | 栗 | 田 | 生 | 稔  |
| 二二、穿孔性腹膜炎八十三例ニ就テ                       | 津  | 中 | 川 | 三 | 朗  |
| 二三、胃粘膜炎ノX線像ニ就テ                         | 京都 | 藤 | 森 | 鶴 | 龜磨 |
| 二四、胎生時腹膜炎ニ因ル「イレウス」ノ一例(X線寫眞標本供覽)        | 京都 | 塚 | 原 | 仲 | 光  |
| 二五、後腹膜淋巴囊腫ノ有柄療法ニ就テ                     | 京都 | 藤 | 浪 | 修 | 一  |
| 二六、稀有ナル腎臟水腫                            | 大阪 | 渡 | 邊 | 正 | 九  |
|                                        | 大阪 | 福 | 原 | 正 | 義  |
|                                        | 大阪 | 森 | 鼻 | 保 |    |



- 二七、腎臟腫ニ就テ  
 二八、被膜内腎臟摘出術ニ就テ  
 二九、再ビ小腸瘻造設ノ經驗  
 三〇、興味アル『ヘルニヤ』ノ一症例  
 三一、外傷性脾臟變腫ノ一例  
 三二、肛門近部ニ瘻孔ヲ形成セル薦骨部腫瘍ノ一例  
 三三、副腎丸結核ノ實驗的研究  
 三四、副腎丸結核生成ニ關スル實驗的研究(第二報)  
 三五、尿道裂傷診斷ニ對スル『レントゲン』撮影法ノ應用  
 三六、『ヒドロケーレ・ムリブリス』ノ一例  
 三七、眞皮炎ニ就テ
- 京都 來須正男  
 京都 中島英一郎  
 京都 塚原伸光  
 大阪 清水源一郎  
 大阪 安井正美  
 神戶 熊野政明  
 大阪 梶村利男  
 大阪 富士原誠一  
 大阪 石田清夫  
 大阪 渡邊一太郎  
 倉敷 山崎直治  
 大垣 吉益雄太郎  
 大垣 大塚比虎三郎

## 會 報

- 轉 居
- 小 龜 正 雄 神戸市市民病院西分院  
 久保田 正 治 旭川市旭川衛戍病院  
 梶 本 誓 旭川市二區三條一六  
 松 尾 弘 長崎醫科大學病理學教室  
 登 米 孝 仙臺市名掛町七〇番地  
 崔 日 文 朝鮮慶北大邱道立醫學講習所内

- 三八、『アルコール』ノ消毒ニ就テ 和歌山 宇山俊三  
 三九、生體ニ於ケル淋巴管系ノ注入法トソノ外科的應用 大阪 原 守 藏  
 四〇、繃帶卷取器ニ就テ 大阪 富原敏也  
 四一、消化器系ノ外科的疾患ト經口免疫 大阪 中川三期  
 四二、葡萄狀球菌『コクチゲン』ニ依リ處置セラレタル海軍局所皮膚ノ免疫獲得程度ニ就テ 大阪 赤土正英  
 四三、綠膿菌腸炎ノ自家『コクチゲン』ニヨル經口免疫 治驗例ニ就テ 大阪 中川三期
- 特別講演  
 一肺臟ノ機能制限ニ就テ (午後一時ヨリ)  
 京都府立醫科大學教授 醫學博士 飯塚直彦  
 演說追加抄録ハ次號ニ掲載ノ豫定デアリマス。

- 伊 藤 進 大連市大連病院外科  
 瀬田 信一 大阪醫科大學病理學教室  
 松田邦三郎 兵庫縣武庫郡精道村芦屋字毛賀金八七八  
 勝 呂 譽 西宮市與古道町九七勝呂病院  
 請川 秋義 和歌山市本町四丁目  
 中村勝之助 樺太真岡町廳立病院外科  
 高木 四郎 京都市左京區聖護院中町洛陽館方